

北海道各地から産出する黒曜石
その48

奥尻地域～露頭写真～ (Okushiri Area)



写真1 勝瀾山採石場の巨大な黒曜岩とパーライトの露頭。露頭の中間地点から見上げて撮影している。写真の左上に人がいる。



写真2 パーライト(白色部)、黒曜岩(黒色部)。勝瀾山では、溶岩流の内部で場所によって圧力が違ったため双方が混ざりあう。



写真3 写真1とは別の勝瀾山採石場の露頭。黒曜岩とパーライトが入り混じった溶岩流である。写真右下に人がいる。



写真4 露頭を近くで観察すると黒曜岩の溶岩の中に発泡したパーライトの部分がある。奥尻島ではごく普通に見られる。



写真5 奥尻島勝瀾山を特徴付ける黒曜石。白い斑点は大きな結晶である。バラバラになってから再度固まったように見える。



写真6 発泡した部分により流理構造が分かる。石器には不向き。島内の遺跡からは勝瀾山の黒曜石は発掘されていない。

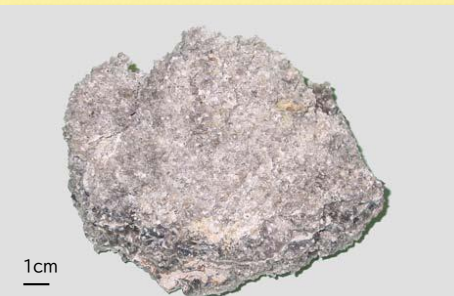


写真7 全体が著しく発泡しており軽くて大変脆い。軽石と同じ。この岩石の下部は、発泡していない黒曜石の部分に相当する。



写真8 全体が発泡している露頭。写真7はここから採取。勝瀾山の溶岩流の表層部分は、常に発泡の度合いが大きかったのかも。

Mukai Masayuki

(学芸員 向井 正幸)

旭川市博物館HP

地学シートHP



地学Sheets

Asahikawa City Museum

